

2021年10月29日

福徳岡ノ場からの軽石 2

沖縄周辺の軽石の漂着は大きな社会問題になっています。連日大きく報道されています。

10月26日11:20センチネル2が沖縄方面を観測しました。沖縄本島を広範囲にカバーしています。数字の上では雲量1%とされていますが、雲は点在しています。前号では軽石の広がりを書きましたが、筋状というのはいかがでしょうか。

正式な軽石の分析を終えないと福徳岡ノ場からとはいえないでしょうが、すさまじい噴出物におどろくばかりです。

美しい沖縄のサンゴの海をめぐって次から次に軽石の筋が続いています。

海水を吸込むウオータージェット推進以外のほとんどの船もエンジンを冷やすために海水を船内に吸込みます。大問題です

魚介類も大きな影響を受けています。海鳥等も同じです。EOブラウザでわかることをEISEIでも詳しく分析してみましょう。

辺土名漁港



辺土名漁港



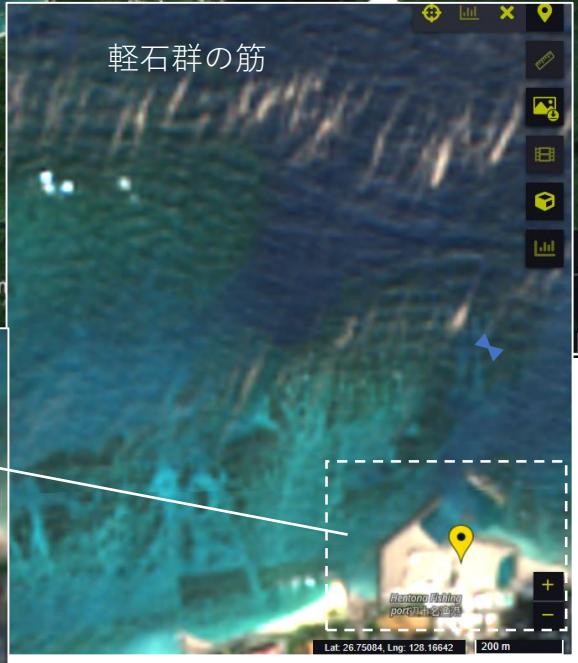
古宇利島

古宇利大橋 1960m

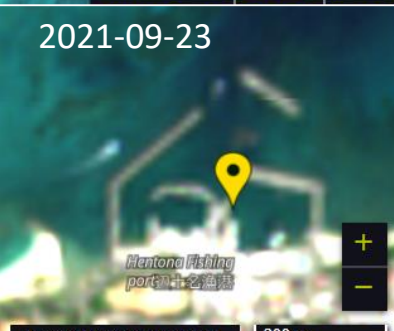
5 km

Ogiri

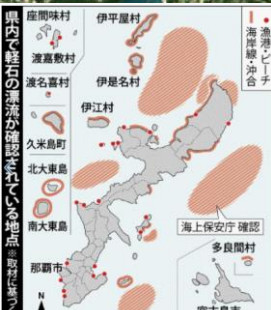
軽石群の筋



2021-09-23



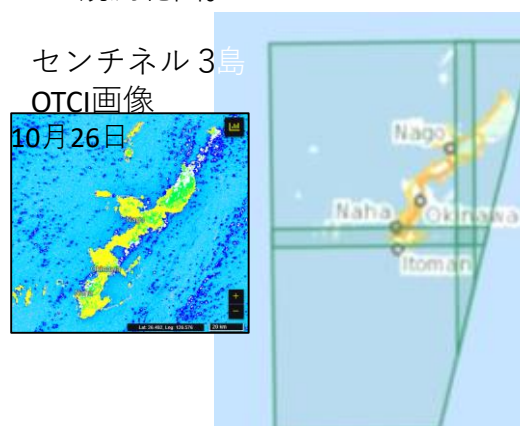
2021-10-26



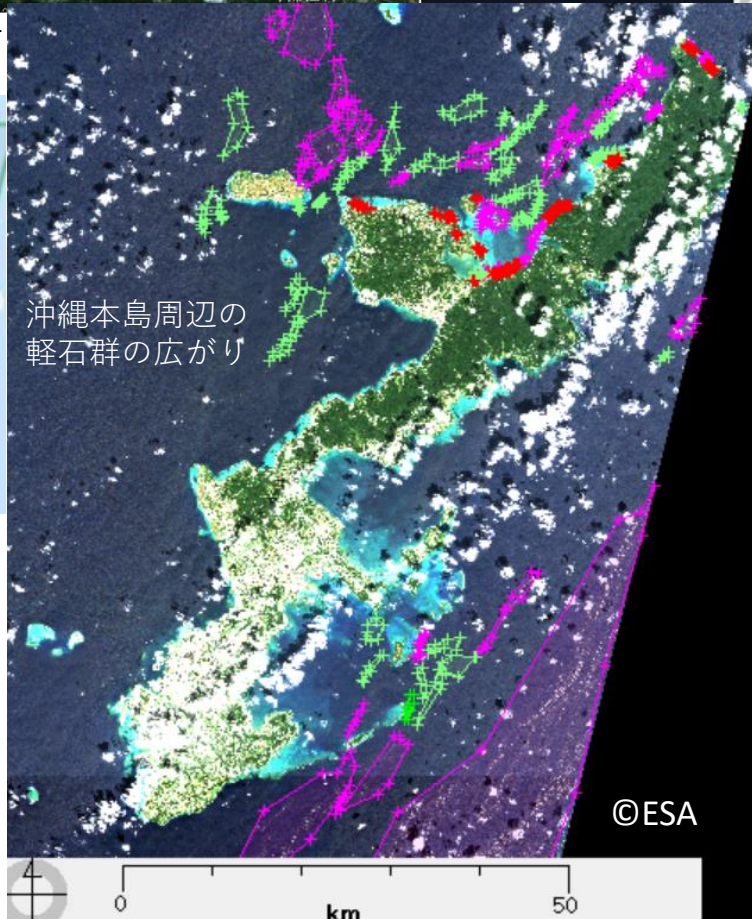
沖縄タイムズ
2021年10月
26日 07:19
古宇利島北方への漂着が多い
<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/gallery/852803?ph=3>



センチネルハブで入手できる各データの観測範囲。



EOブラウザでは観測した範囲が連続して確認できます、元データのダウンロードは個別におこないません。
今回は4つの画面をEISEIで1つの画面にまとめます



軽石の漂着イメージ

強風の影響で沖縄へ

10/26(火) 12:54
<https://news.yahoo.co.jp/articles/ca299436945609191e0fb586fc208def988ea009>

軽石群を3色の多角形のマークで囲んだ。風の方角と軽石群の筋の向きが一致している。26日の強風がおさまると、軽石群の筋はどのように変化するのだろうか

10月26日 11:00の風 地上

26.72° N 128.09° E ×
 25° @ 25 km/h
 ©地球の風

今回の福徳岡ノ場の噴火は国内で戦後最大規模だったそうです。噴煙は上空約16~19kmに達し、軽石や火山灰などの噴出量は少なくとも約1億立方メートル(東京ドーム約80杯分)といわれています。